

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	安全パトロール実施事業
事業実施前の状況 ① (～R3年度)	実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。 H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。 H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定でき、隊員のアクセスが良好になった。 H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。 R1年以降は、隊員の高齢化が進み、80歳になったのを機に除隊の申し出が多くなった。R2年以降は、免許証なしだが、同乗でパトロールをお願いして隊員補充を行なっている。 事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が嵩んだ。さらに、R3年2月、3月と連続してパンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。 令和4年1月に、デイズのバッテリーが上がり、バッテリーを交換し、100Vチャージ器で定期的にバッテリーの充電点検を行うことにした。

事業名	安全パトロール実施事業
事業実施前の状況 ②（～R5年度）	巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。 R4、5年度は昼間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、昼間の出勤が激減した。補充のため、多数回の乗務をして頂く隊員に出勤回数の増数、さらに夫婦での乗務をお願いした。
事業実施後の状況 R6年度	巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、朝は二人乗務ができないため、定点パトロールで挨拶を実施した。また、昼間の出勤ができない日には、夜間の巡回を早めて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。 R6年度も昼間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、昼間の出勤がさらに減少した。

事業の効果 (～R5年度)	パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がり、防犯カメラ事業との相乗効果もあり、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。 また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。 令和2年度からは、駐車違反やゴミ不法投棄、猫のことで度々地域住民に呼び止められることが多くなったが、池田署や市役所への連絡でしか対応することができない。 朝のパトロールは主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。 R4、5年度は、長髪軽装の男性の不審者情報が度々寄せられたが、地域住民の散歩と判明したが、引き続き通報が相次ぐ。 R5年度、除隊の申し出が4名、死去1名あったが、新たに2名入隊されたため、かろうじて現状維持が可能となった。
事業の効果 R6年度	朝のパトロールは定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。 R6年度も体調不良で、3名の除隊申し出があり、補充隊員なしで何とか月～金のスケジュールを維持できた。
今後の課題等	毎年課題は同じく、隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュールに空欄が多々生じている。 出勤が二人ペアが鉄則であるため、朝は一人で定点立ちとし、昼間は運転免許を保有しない65歳以上の高齢者の同乗をお願いして運行スケジュールを凌いでいる現状である。 交通に閉鎖的な地域が幸いして、パトロールにおける事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	地域行事等活動促進事業
事業実施前の状況 ①(～H30年度)	子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御輿の巡行が2丁目だけできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御輿と同様の外観を有する子供御輿を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。 そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御輿が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。 第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。 しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられ、夏祭りが平成27年8月22日に開催された。また同じメンバーによる第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催し、さらに平成29年8月26日に第43回夏祭りが開催された。 一方子供会は、1丁目子供会と2丁目から5丁目まで全てが統合されたわんぱく子供会の2組織になった。 平成30年度も、住民有志による第44回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成29年8月25日に開催された。

事業名	地域行事等活動促進事業
事業実施前の状況 ②(～R5年度)	本協議会役員が組織した伏尾台夏祭り実行委員会が主催し、R1年度も8月24日に第45回伏尾台夏祭りが開催された。 ほそごう秋祭りは11月3日に本協議会が支援する伏尾台合同防災訓練と合同開催された。11月3日9時30分より合同防災訓練が開催され、450名を超える参加者が7種の訓練を受けた。ほそごう学園3年生、8年生は全員参加して午後からの秋祭りの各種イベントにも参加し、国際交流センターのベトナムの若者たちや伏尾台地域住民との交流に貢献してくれた。 夏祭りは、R2年度の第46回、R3年度の第47回、R4年度の第48回、それぞれコロナ禍のため中止となった。 R5年度は、8月26日に第49回伏尾台夏祭りが開催された。久しぶりの開催で人出が多く、それと共にゴミが増加した。
事業実施後の状況	令和6年8月24日に、第50回伏尾台夏祭りが開催できるように、夜間照明の設置費用 旧北高校駐車場警備費用の一部と子ども御輿保険費用を補助しました。 祭り当日は、午前8時より12時まで、1丁目三角公園より子供御輿が巡航を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御輿が4,5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。 会場の伏小南校舎前に特設ステージを設け、かつ、秦野地区より借用したヤグラも設置した。午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。続いて、打ち上げ花火が行われた後7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。 伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多くの参加者があった。
事業の効果	育成者が子ども会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子ども会の新旧の校区長が毎年加入していただき、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。 夏祭り実行委員会が、自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作りに貢献している。

事業名	地域行事等活動促進事業
今後の課題等	子ども会は、1つに統合されて運営されるほど子どもの人数が減少している。R5年の夏は猛暑であり、午前中の御輿、午後のゲーム、夕刻からのフェスティバルに参加することが、極めて苦痛であるとの声が上がったので、R6年度は、午前の早い時間から短時間の御輿巡行のみ参加できるように企画したが、実行委員長がこれを見做する形になり、猛暑で疲弊したため、子ども会側は、令和7年度から夏祭り不参加を決めた。 さらに。負担軽減策として午後からのゲーム大会を無くし、さらに、夏祭りの開始と終了時刻を早めることで、子どもだけでなく、関係者の負担軽減を図った。 住民有志による夏祭り実行委員会による、フェスティバル形態の夏祭りの企画は好評を得ているが、設営撤去が実行委員会全体でなく一部の委員に全負担がかかるため、7年度は借用する櫓のみとすることを決定した。

令和6年度 第50回伏尾台夏祭り 決算報告書

収入総額 1,369,187 円

支出総額 1,369,187 円

【収入の部】

(単位:円)

項 目	予算金額	実行金額	説 明
自治会協賛金	213,000	226,800	300円×756戸(全自治会)
自治会金券費	355,000	378,000	500円×756戸(全自治会)
夏祭り補助金	200,000	200,000	コミュニティ推進協議会の補助金
出店料徴収	63,000	62,000	出店ブース数21×3,000円
広告収入	121,000	157,000	広告掲載数28件、提灯協賛20件
ご寄付	15,000	67,900	御祝儀(4名様)
前年の繰越金	277,485	277,487	繰越金(227,485円)、利子2円

収入合計 1,244,485 1,369,187 (予算比差額 +81,802円)

【支出の部】

(単位:円)

項 目	予算金額	実行金額	説 明
運営費	180,000	211,756	
			警備会社支払い 85,800
			花火・消耗品・お茶・他 47,641
			プログラム各戸配布費用 14,784
			反省会費用 47,553
印刷費	100,000	101,974	金券,案内ちらし等版作成及び印刷
事務費	20,000	26,000	資料プリント代、事務用品等
保険費用	20,000	10,500	総合保険 10,500
会場電気設備費	500,000	473,000	近藤電気工事
会場設備費	20,000	5,461	舞台部品(工具・資材・ポンペ等)
金券換金費	320,000	318,800	全自治会,子供神輿補助、他
予備費(積立金)	84,485	221,696	

支出合計 1,244,485 1,369,187 (予算比差額 +174,702円)

収入合計 1,369,187 円

支出合計 1,369,187 円

(予備費(積立金) 221,696円含む)

(予備費内訳 郵便局貯金 221,696 円)

上記の通り報告します。

令和6年 9月 30日

会計

竹之下伸治



監 査 報 告

令和6年第50回夏祭り (伏尾台夏祭り実行委員会主催) の決算について
収入・支出ならびに関係諸帳簿を監査したところ、決算報告のとおり適正に
執行されていたことを報告いたします。

令和6年 9月 30日

会計監査

内藤健一



令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 川野 芳紀

事業の評価書

以下のとおり、地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業実施前の状況 ①(～R1年度)	コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。 平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。西公園事務所は、伏尾台地域に入っすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示されてストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となり、直ちに撤去した。 平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催をコミプラで行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業実施前の状況 ②(～R5年度)	令和2年度は、実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。一方、コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額の交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めなどで何とかしのぐことができた。 令和3年は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は約750名で微増であったが、プラザ全体では6,234名と大幅に増加した。 らくらく送迎サービスと共におでかけサポートグリスロの実証実験の拠点としてコミプラを活用できた。 令和5年度は、5,208名の利用を頂いた。減少理由は、高齢者のコロナ禍自粛が常態化したものと推定される。
事業実施後の状況	協議会事務所を活動拠点として整備しこれを運営するため、建物の整備を行い、活動に伴う水道代・電気代を支払った。 また、PRを行うホームページ更新維持のためインターネット回線を維持し、活動の事務を行うための印刷、コピーや通信事務を行った。西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。 また、コミプラでは、伏尾台防災防犯委員会や各自治会の事務や打ち合わせ、会議なども利用されている。よって、新型コロナウイルス感染症の第5類に移行後も、引き続き自動体温計とアルコール消毒液を設置して、安全第一で運営を行なった。 さらに、月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、キオスク端末利用者への対応、送迎サービスの予約受付を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 西公園事務所は、コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業の効果	コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、R6年4月1日からR7年3月31日までの実績で、6,213名の利用を頂いた。増加理由は、学園生をはじめとした子どもたちの毎日の利用、イベント参加者、キオスク端末の利用者増など全ての年齢層の増加が認められて、R4年度の利用者水準に戻った。 来訪者のうち、子育て支援ルームを主目的とした利用者は、約1,422名(R4 750名、R5 940名)とこれも大きく増加した。
今後の課題等	コミプラのフリーサロンの利用者数は、コロナ禍で減少したが、これが回復し増加し、キオスク端末の利用も順次増加し、さらに、トイレのみの利用も多くなっており、換気と消毒を定期的に行う必要があり、日に数度のトイレ掃除を行う必要がある。 コミプラホールでは、ほそごう学園生の利用が高齢者の利用を上回る傾向にあり、それに伴い床が靴底の砂で損傷することが多くなり、ワックスでは対応が困難になり始めた。 子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。しかし、R6年度は、伏尾台住民以外の利用とリピート利用が増加したため大きく増加している。 一方、子育て支援ルームのファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、これに伴う利用者の増加には結びついていないので、利用促進方法を考えていきたい。 また、はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子度たちが、水遊びで利用できるようにしたところ、多くの利用をいただいたので、コミプラ前の公園を借りて、水遊び場の開設を検討したい。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、コミプラには、建築協定連合委員会の事務局も配置しており、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役のスタッフ、現在10名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くない。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

以下のとおり、コミュニティサロン設置事業の評価を報告します。

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施前の 状況 ①(H27年度)	伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する处、待ち合わせや談笑する处、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施前の状況 ②（～R5年度）	平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 里山の植物を紹介するグループの展覧会場として利用された。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。 宿題カフェ会場として利用されている。 夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。 山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。 また、伏尾台送迎サービスが国交省の日本版MaaS実証実験の中に組み入れられて令和2年12月～令和3年2月に実施され、実験拠点として利用された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能しており、R2.12-R3.2の国交省の日本版MaaS実証実験に続いて、R4.10-12に、トヨタグループの協力のもと、お出かけサポートグリッドの定時定路線の送迎サービス実証実験の送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能した。 R5年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で5,208名である。そのうち子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であった。

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施後の状況	利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫、挿絵などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、ほそごう学園生の宿題をグループで行う生徒、試験前の高校生グループ、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 サロンは、らくらく送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能している。もちろん、らくらく送迎の情報提供、登録受け場所としても機能している。 また、池田市の総合窓口の臨時会場として、マイナンバーカードの発行受付会場としても利用された。
事業の効果	伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,213名である。 そのうち子育て支援ルームのみの利用者は、約1,422名であった。
今後の課題等	利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

以下のとおり、まちの情報センター運営事業の評価を報告します。

事業名	まちの情報センター運営事業
事業実施前の状況	伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは 5,210名が来訪された。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。 令和4年度は、実績で6,234名であり、子育て支援ルームのみの利用者は、約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。 令和5年度は、実績で5,208名である。 子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であり、フリーサロンなどへは約4,088名が来訪された。

事業名	まちの情報センター運営事業
事業実施後の状況	フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」などのカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。 キオスク端末の利用者は毎年順次増加している。 R6年度はフリーサロン内の東側の壁一面にコルクボードを掲示板として活用し、前年度の屏風型でキャスター付きの3連ホワイトボードを2組、同様の1枚の独立型と組み合わせて掲示形態を柔軟に変化させる事ができた。 新たに、パーソナルモビリティ車両の展示を行い、試乗会など通して高齢者の地域内移動促進の情報提供を行なっている。
事業の効果	伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,213名である。 子育て支援ルームのみの利用者は、約1,422名であり、フリーサロンなどへは約4,791名が来訪された。

事業名	まちの情報センター運営事業
今後の課題等	フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されており、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できている。 今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 R5年度導入した屏風型でキャスター付きの3連ホワイトボードを2組をサロンに配置して写真展、展示会など、同様の1枚の独立型を子育て支援ルームの開催イベント告知などに活用することをさらに進めたい。 パーソナルモビリティ車両の展示は今後も継続させていきたい。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

以下とおり、子育て支援環境整備事業の評価を報告します。

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施前の 状況 ①(~H27年度)	平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の専用室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。 平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施前の状況 ②(~R5年度)	平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であった。 平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。 令和2年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。 令和3年度は、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、実績で6,234名であり、子育て支援ルームのみの利用者は、約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。 R5年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であった。夏休みには、兄弟姉妹が揃うため、未就園児以下を対象とするルームの利用は減少するため、親子ランドと称して、旧伏小の教室を利用して水遊びができるよう、年齢制限を外して開催したところ、7回開催で160名の利用があった。
事業実施後の状況	子育て支援ルーム登録会員数は、未就園児が成長して幼稚園児となる家庭が多くなるとともに減少しているが、繰り返し利用が増えて、述べ1,422名の利用があった。 夏休みには、兄弟姉妹が揃うため、未就園児以下を対象とするルームの利用は減少するため、親子ランドと称して、旧伏小の教室を利用して水遊びができるよう、年齢制限を外して開催したところ、6回開催で120名の利用があった。

事業名	子育て支援環境整備事業
事業の効果	協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。 よって、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。 なお、令和3、4年度に、感染予防に対する意識が少ない母親が多く、清掃も後片付けも利用者がある程度行うことをお願いするも、綺麗で便利な施設があれば利用するが、掃除や片付けまではしたくないと明言する母親が多く、ルームが住民の管理下にあり、一人のボランティアの負担が大きことが理解できず、市の施設だから自分たちは掃除はしないという意識がとても強いことに驚いた。 そこで、使用形態を改善するためと称して、ルームの清掃や配置換え行う5ヶ月間、使用制限を行い、利用者との話し合いを行い、ある程度の管理側と利用者側の理解が進み、結果、年間の利用者数の増加に繋がった。 ところが、R6年度その世代の未就園児が育って、次の世代になるとさらに若い母子となり、また前述の利用するだけの傾向が強く現れてきている。
今後の課題等	子育て支援ルームの使用に関する規則、感染症予防措置、清掃も後片付けも利用者が一定程度行うことを理解してもらう努力を続けていく必要がある。 子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。しかし、伏尾台住民以外の利用が増えてきている。 一方、子育て支援ルームのファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていないので、利用促進方法を考えていきたい。 また、はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子度たちが、水遊びで利用できるようにしたところ、多くの利用をいただいたので、コミプラ前の公園を借りて、水遊び場の開設を検討したい。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況 ①（～H30年度）	伏尾台では、広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、会員のボランティアで実施し、費用は紙とインク代の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。 平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。 さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を会員の手配りで実施した。 平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。 平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。 平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。 平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況 ②（～R3年度）	平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青パトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。 平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。 平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。 令和元年年11月、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している広報誌第21号を全戸配布した。 令和2年3月末、「はぐのさと」オープン記念際のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用を具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している広報紙代22号を全戸配布した。 ふしおだい第23号は、令和2年12月に全戸配布され、令和2年1月より開始されている「伏尾台送迎サービス」無料のらくらく送迎の降車風景を表紙にして、国交省のMaaS実証実験が開始されたこと、山びこ寄席と音楽ライブ並びに防災訓練が「はぐのさと」で開催されたことを報告し、コミプラの子育て支援ルームの活用を広報している。 ふしおだい第24号は、令和3年3月末に全戸配布され、ほそごう学園の卒業式のために祝登りを設置した後に撮影した学園前風景を表紙にし、旧伏尾台小学校の跡地活用を具体化をコミ協が進めた、はぐのさと リサイクルショップの紹介と共に、貸出教室などについて広報し、国交省のMaaS実証実験は終了したが、無料の「伏尾台送迎サービス」は今後も継続して行われることを広報している。 令和3年度は、本事業は提案されていないが、ふしおだい第25号を令和4年3月末に全戸配布した。伏尾台の四季の花を表紙にしたもので、コミ協って、何なのですか？ Q&A形式で、コミュニティ推進協議会の活動を紹介して、過去の活動これからの活動課題を紹介した。

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況 ③（～R5年度）	令和4年度は、12月末に発行したふしおだい第26号は、8月から12月まで実施されたイベントの写真を表紙にしたもので、第48回伏尾台夏祭り、9～11月の3回連続やまびこファスタ、第41回伏尾台大運動会、総合防災訓練とほそごう秋まつり、特色ある公園づくり住民座談会、子ども会とのコラボの掃除、お出かけサポートグリスロ実証実験 を紹介した。 ふしおだい第26号は、令和4年12月末に全戸配布され、8月から12月まで実施されたイベントの写真を表紙にしたもので、第48回伏尾台夏祭り、9～11月の3回連続やまびこファスタ、第41回伏尾台大運動会、総合防災訓練とほそごう秋まつり、特色ある公園づくり住民座談会、子ども会とのコラボの掃除、お出かけサポートグリスロ実証実験 を紹介した。 ふしおだい第27号は、令和5年4月に全戸配布され、はぐのさと（旧伏尾台小学校）の活用が進んでいることの紹介写真と共に、教室を貸し出しスペースとして紹介している。R5年1～3月のやまびこ寄席の報告を行った。さらに、R5年度の活動予定として、夏休みに親子の居場所として親子ランドを開催する旨紹介し、コミプラに新たな掲示システムを導入することも紹介した。また、協議会のR5年度の実施予定事業を紹介した。 令和5年度は、年3回の発行に変更し、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように、まず、Instagramを提供した。 ふしおだい第28号は、令和5年9月に全戸配布され、初めて野外で夕刻からの山びこフェスタの様子を表紙にして、夏休み向けの親子ランド、伏尾台の夏祭り用ステージの背景画を子供達が描く様子、夏祭り、初めて宿泊行事の避難所設営訓練キャンプの開催を報告している。 ふしおだい第29号は、令和6年1月に全戸配布され、11月22日に旧伏小で開催された伏尾台生誕50周年記念事業の様子を表紙にし、手芸教室、人形劇、山びこ寄席、朗読会、総合防災訓練、秋祭り、初めてで大盛況の餅つき大会の様子、子ども会も参加した歳末警戒パトロールを報告している。 ふしおだい第30号は、令和6年4月に全戸配布され、3月22日のリニューアルオープン後の遊具で遊ぶ子供達の様子を表紙にして、新しい北中央公園の様子とともに子育て支援ルームの利用案内を掲載し、山びこ寄せ、折り紙教室の開催を報告し、伏尾台桜まつりで桜マップの作成のための写真募集を広報している。

事業実施後の状況 R6年度	A3版広報紙を2回、A4版広報誌を2回、伏尾台地域の全戸配布した。 ふしおだい第31号は、令和6年10月に全戸配布され、8月24日の第50回伏尾台夏祭り様子を表紙にして、4月6日の桜まつり、6月22日のふしおだいフェスタ、7月27日の浴衣の着付け教室、8月3、4日の避難所設営キャンプ、9月25日の詩の朗読会の様子を報告している。さらに10月から12月のイベント予定を広報した。 FUSHIODAI NEWS vol.1は、初めてのA4一枚の両面紙で広報するもので、令和7年1月に全戸配布され、コミ協の紹介を行っている。 FUSHIODAI NEWS vol.2は、令和7年3月に全戸配布され、伏尾台桜まつりの予定を広報している。 ふしおだい第32号は、令和7年3月に全戸配布され、伏尾台の各所の桜を表紙にし、伏尾台ハロウィン、手芸教室、餅つき大会、巻き寿司教室、折り紙教室、山びこ寄席の様子を報告している。さらに、伏尾台での団体活動を紹介した。
事業の効果	平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、協議会活動の紹介やアンケート回収には効果があるが、相変わらず協議会入会、安全パトロール隊員の応募などの広報についての効果は見られない。 一方、平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できた。 特に、年度末並びに年度始めに、ほそごう学園教職員への地域分権制度と伏尾台地域の活動についての講義の機会を得た際にはテキストとして活用できた。 R4年～6年度も、ほそごう学園での講師の依頼を受けた際に、学園生へのテキスト、参考資料として活用できた。 令和6年度は、全世代向けの広報誌を年2回に加え、若年層に興味を持ってもらえる紙面の広報紙A4版を2回発行した。 さらに、伏尾台地域通信管理事業にて、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報紙とともに活用できるように、インスタグラム、LINEを提供し、広報誌に導入用のQRコードを記載して利用を促した。

今後の課題等	過去、コロナ感染症拡大の最中では、集会やイベントの開催が困難となり、広報誌を通じての活動の報告は重要であった。その後、平常化した際、イベントの告知、案内などには、webを介しての情報の受発信の方が、特に若年層には効果的と考えて実施してきた。 さらに、高齢者を含む全世代向けの広報誌を年2回、若年層に興味を持ってもらえる紙面の広報紙を年に4回程度発行する際に、インスタグラム、LINEとの連携を想定したコンテンツなど、新たな誌面構成を実施して、単なる広報紙を発行するマンネリ化を払拭したい。 また、定期的かつタイムリーな発行ルーチンが守られず、経緯した事が過去にあったことから、やはり年5～6回の発行は、綿密な計画性が重要となる。
---------------	---

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	地域情報発信管理事業
事業実施前の状況	伏尾台の協議会活動の広報、山びこフェスタの開催告知、各種イベントの開催予告などの情報は、主に年2回発行の広報紙、並びに都度、掲示板などに貼るチラシ、ポスターなどで告知しており、地域内の住民向けで限定的であった。 また、広報紙のバックナンバーは、伏尾台で暮らす HPに掲載していた。 地域内外に向けて広くかかる情報を発信し、また、協議会やイベントに対する住民等からの問い合わせを受ける手段が構築されていなかった。 そこで、令和5年度はLINEの公式アカウントを新規開設し、協議会が行う各種のイベントの開催告知や参加者の募集に、積極的に利用し、地域コミュニティ紙発行事業での年3回の広報誌に、導入用のQRコードを記載して利用を促した。

事業実施後の状況	令和6年度は、前年度からのLINEの公式アカウントを引き続き維持し、LINE instagram facebook H.P. アンケートの利用促進のため、地域コミュニティ紙発行业で、全世代向けの広報誌を年2回、若年層向けの広報紙A4版を2回発行した際に、広報誌に導入用のQRコードを記載した。 広報誌、イベント紹介などの協議会活動の情報を発信した。
事業の効果	インスタグラム、LINEにて情報提供したところ、協議会活動に関心を持つ、池田市内外の方々から見学などの申し込みがあった。 音楽落語などの山びこフェスタのポスターを紹介することができた。 また、避難所設営訓練キャンプの開催告知と参加申込に関し、池田市内複数地域からの問い合わせ申し込みがあった。 10月下旬のハロウィンイベントの開催告知と参加申込に関し、地域内からの問い合わせ申し込みがあった。 3月の伏尾台桜まつりに関して開催告知を行ったところ、多数の集客効果が得られた。
今後の課題等	令和7年度は、広報誌発行业において、従来の高齢者を含む全世代向けの広報誌を年2回、若年層に興味を持ってもらえる紙面の広報紙を年に4回程度発行することを想定している。 紙面の発行とインスタグラム、LINEとが連携した形態でコンテンツの内容、情報発信時期などを考慮して、効率の良い情報発信と情報収集を行う必要がある。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況 ① (～H30年度)	伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(R1年度1074戸毎年減少) 平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。 7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。 8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。 8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。 11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。 12月27日,29日,30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。 2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。 3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況 ②（～R3年度）	平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。 6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。 8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。 8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。 11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。ほそごう学園の複数学年が全員参加し、細河の消防団の参加し、旧伏小内の国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加し、地域一帯の防災訓練が実施できた。 12月27日,29日,30日の年末特別警戒に延べ105名が参加した。 R2年2月以降は、コロナ感染症予防のため、会議などを全て中止した。 令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月9日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替え、R3年3月定例会のみ、年度末会議として開催した。 訓練活動は、6月21日、資機材の点検使用訓練に12名参加。11月1日に旧伏尾台小学校職員室で、「蜜にならない避難所運営訓練」を隊員のみ38名で行い、市が備蓄していた間仕切りテントを借用してこれが有効なことを確認し、補助金で購入を予定していた備蓄品として、間仕切りテントを購入した。 住民とほそごう学園生徒との総合防災訓練は、3蜜を避けるために中止したが、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋は、予定どおり補助金にて購入した。 啓発活動として、12月29日と30日20時から50分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延55人で実施した。 令和3年度は、事業提案を行っておらず、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月8日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替えた。 訓練活動は、6月20日の資機材の点検使用訓練は中止した。10月31日に旧伏尾台小学校職員室で、「蜜にならない避難所運営訓練」を隊員のみ40名で行い、R2年度の補助金で購入した間仕切りテントの使用訓練を行った。 啓発活動として、12月29日と30日20時から45分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延45人で実施した。

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況 ③（～R5年度）	令和4年度は、コロナ禍であるが、総会(5月14日)の開催を行った。全ての定例会議を書面通知に替えた。特に、R5年3月定例会を中止して、R5年4月1日に年度末会議、防犯教室を開催し、30人の参加があった。 訓練活動は、6月19日、資機材の点検使用訓練に20名参加。11月6日にほそごう学園で総合防災訓練を行なった。4年生、8年生をはじめ住民ら450人の参加を得た。 4、8年生には特にマイタイムラインの作成訓練を受けてもらい、R2年度購入の間仕切りテント、4年度の簡易ベッドを使用し、避難所設営訓練を実施した、 さらに、R2年度購入の炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を用い、約500人分の炊き出し訓練が実施できた 啓発活動として、12月27日に歳末警戒発隊式に20人、29日には子供会の参加があり、50名でパトロールを行い、30日んは30名で、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して実施した。 R5年度、防災防犯委員会の会議、防犯教室の開催は、池田市防犯委員会と連携のもと実施された。 以下、協議会との連携で補助金を使用する事業を実施した。 8月5～6日に開催した避難所設営訓練キャンプは、5日夕刻に委員会とキャンプ参加の親子と合わせて50名がマイタイムラインの学習後、避難所の設営を行い、親子14名が旧伏小職員室内に設営した間仕切りテント内で宿泊体験した。 11月5日、ほそごう学園にて、4年生と8年生全員の参加を得て、伏尾台自治会、細河消防分団、危機管理課の協力を得て防災総合訓練を行い、炊き出し訓練の成果の豚汁提供数で、350名の参加者を得た。 12月27日に歳末警戒発隊式に15人、12月29日、30日の年末特別警戒には、子ども会から子どもと保護者の参加があり、延べ110名が参加した。パトロールに参加した子どもたちは、大声で火の用心、戸締り用心を連呼し、終了後の参加賞に大喜びであった。

事業実施後の状況 令和6年度	防災防犯委員会との連携で訓練活動、啓発活動、研修活動を本事業にて実施した。 8月3～4日に開催した避難所設営訓練キャンプは、3日夕刻に委員会とキャンプ参加の親子と合わせて55名がマイタイムラインの学習後、避難所の設営を行い、親子19名が旧伏小職員室内に設営した間仕切りテント内で宿泊体験した。 11月17日、ほそごう学園にて、5年生と8年生全員の参加を得て、伏尾台自治会、細河消防分団、危機管理課の協力を得て防災総合訓練を行い、炊き出し訓練の成果の豚汁提供数で、400名の参加者を得た。 12月29日、30日の年末特別警戒には、ボーイスカウト、子ども会から子どもと保護者の参加があり、延べ120名が参加した。
事業の効果	令和6年度の活動は、避難所設営訓練キャンプ、総合防災訓練、年末警戒パトロール、防犯教室の開催のみであった。 避難所設営訓練キャンプでは、購入備蓄した間仕切りテント、簡易ベッドが実際に使用され、子どもたちには良い思い出ができた。 総合防災訓練では、昨年に続けて、間仕切りテント、簡易ベッドの避難所設営訓練、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を使用した、炊き出し訓練を行うことができ、今後継続して有効活用できる。 年末警戒パトロールは、地域の安全を高齢者と共に考え体験できるため、さらに昨年より大幅増の子ども会、ボーイスカウトの参加が得られ、好評であり、今後さらに拡大して継続開催できる。
今後の課題等	コロナ禍が続いた結果、備蓄資機材の使用訓練や見学会などの要望に応えられない状態が続き、災害時の安否声かけができる体制の確立のために不可欠な近所づきあいを深める活動ができない現状をどう解決するかが問われてきた。 しかし、R4年からは、ほそごう学園、子ども会との連携により活動を通してた多世代交流を図る事ができてきているので、連携を深めたい。 ただし、活動を担ってもらう伏尾台防災・防犯委員会においても、高齢化で除隊する委員が増加し、R4年度、90名から一気に70名台に激減し、さらにR6年度は、60名までに減少したことが大きな課題となっている。

令和6年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 川野 芳紀

事業の評価書

以下のとおり、伏尾台地域活性化事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地区活性化事業
事業実施前の状況 ①(～R5年)	毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。 平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。 平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。 平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。 平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。これまで31回の山びこフェスタを開催した。 令和2年3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、令和2年前期も引き続き、イベント開催を中止した。10月25日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室にて、第32回山びこ寄席 二人会を開催した。11月2日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団(演奏者7人)による第33回音楽ライブを行った。 令和3年度は、事業提案限度額削減のため、事業提案できなかった。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、換気を行うコミプラ入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取り50人定員とし、マスク着用で着席していただく形で、山びこフェスタを、音楽3回、落語3回、合計6回開催した。 R5年度は、7、11、2月の3回の落語、1月に朗読劇、計5回の山びこフェスタを、コミプラにて開催した。9月に音楽会を、旧伏小南校舎前の屋外で開催した。

事業名	伏尾台地域活性化事業
事業実施後の状況	R6年度は、6月の音楽会を旧伏小南校舎前の屋外で開催した。1～3月の3回の落語の山びこフェスタを、コミプラにて開催した。 コミプラでの開催は、密を避けるため。定員を50名として広報したが、毎回60名を超える入場者を得た。 6月12日(土) アニソン MAGUMA 歌とトーク リピート山中 1月25日(土) 落語の会 桂j雀三郎 桂鯛蔵 2月22日(土) 落語の会 桂 楽珍 笑福亭喬明 3月22日(土) 落語の会 林家菊丸 笑福亭笑有
事業の効果	特に、音楽会は初の15時から子供向けイベントと2部のコンサート開催で、たこ焼,きかき氷の屋台と飲料販売もあり、雨であったが、4時間の開催で述べ300名の参加を得た。 落語会は、それぞれ60名超えの盛会であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。
今後の課題等	例年のとおり、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが、応募が全くなかった。 過去、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多かった。 今回、音楽会は雨天であり、会場を旧職員室で行ったが、子供向けイベントを行い、屋外にテントを張り、たこ焼,きかき氷の屋台と飲料販売を併設した効果があり、盛況となった。 従って、落語、音楽などのジャンルにとらわれない内容や開催方法などを検討する必要がある。

令和7年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3

協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)

会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台創生会議2020宣言広報事業
事業実施前の状況	市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。 この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付してくださることになり、平成28年11月末に設備が完成した。 市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。
事業実施後の状況	「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。 また、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を住民の手で、点検することができた。しかし、退色が進み、汚れが目立つようになっている。
事業の効果	新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往来者に広報できている。 1丁目に居住し、出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。同様の意見を複数聞いた。 また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。
今後の課題等	協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。 <u>特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。新吉田橋自体の保守を考慮すると、R7年度で設置後9年を経過して10年目を迎えるため、抜本的な解決策を検討する必要がある。</u> また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

以下のとおり、伏尾台地域送迎サービス事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
事業実施前の状況 ①（～R1年度）	伏尾台の住民、特に自家用車などを持たない、高齢や病気などで運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対しての救済手段が全くなかった。 そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
事業実施前の状況 ②（～R5年度）	送迎車両の運転を無償ボランティアで行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り組むことで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。 コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けることができるようにした。 送迎車両は、リース契約を行う軽自動車を利用する。送迎ドライバーは、予め事務局に乗務可能な日時を登録しておき、利用者の申し込み日時とのマッチングを図り、送迎を行った。 一方で、本事業の今後の継続を考えて、国交省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部局に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、採択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。 MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。送迎申込回数は、述べ520回を超え、送迎人数は800名を超えた。 令和3年7月末時点で、登録者数は200名を超え、送迎申込回数は800回を超え、送迎人数は1070名を超えた。 令和4年度は、キャンセルを含み321件の申し込みがあり、1086名の送迎を行なった。 令和4年1月にトヨタグループより、7人乗り電動車(GSM)で定時定路線走行を行う無予約型の送迎サービス実証実験の申し入れがあり、前日までの予約型「らくらく送迎」を行いながらの同時並行で、「おでかけサポートグリスロ」として、10月末から12月下旬まで実証実験を行なった。 伏尾台1丁目と2丁目の3コースを走行する「おでかけサポートグリスロ」実証実験では、新規登録者約150名、395名の利用があった。 令和5年度は、129件の予約、465名の送迎を行い。実働で日に2.8人の送迎となった。 利用者の大幅減少の原因は、令和5年1月ごろから、電話予約が可能で定期的に利用されていたヘビーユーザーの多くが、一斉に入院あるいは施設に入られるなどで、利用予約がなくなったことによる。

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
事業実施後の状況	令和6年度は、537名の送迎を行い。実働で日に2.9人の送迎となった。 令和5年より70人ほどの増加ではあるが、稼働日平均では微増である。前日までの予約がご自身で可能な方の利用に限られ、グループ利用でも、予約者は限定的である。 利用のためのユーザー登録は、300名と増えてはいるが、当日予約の利用を多く望まれる方が多く、ドライバー不足で対応が不可能であるため、新規登録者の前日までの利用申し込みは少ない。 相変わらず、コープの買い物帰りの人、数井医院からの帰りの人が、コミプラを訪れて、送って欲しいと願い出られることが増えている。予約についてお尋ねすると、忘れていた、面倒だという返答が返ってくる状況で、高齢になる程、その傾向が強いようである。 予約なし「おでかけサポートグリスロ」の経験から、高齢者が大半の地域住民が望んでいるのは、予約なしのオンデマンド交通であると言える。
事業の効果	令和4年度は、321件の予約、1068名の送迎を行い、送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。 「おでかけサポートグリスロ」実証実験の開始前後に高齢者を対象にアンケート調査が、日本福祉大学の主導のもと実施され、送迎サービスの利用が健康寿命の延命に効果があることが判明した。 予約型「らくらく送迎」で1068名、予約なし「おでかけサポートグリスロ」で395名の利用者は、ほぼ重複することなく、個別の需要であることが判明した。 ところが、令和5年に入ると、電話予約が可能で定期的に利用されていたヘビーユーザーの多くの予約がなくなり、令和4年度の半分以下の利用者数となった。 令和6年度は、前年より70名増加の537名の送迎を行い。実働で日に2.9人の送迎となった。前日までの予約を前提にした運用では、高齢化が進むほど利用者は限定的となる事が明らかである。

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
今後の課題等	伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、ドライバーと利用者ともに、地域の高齢化率が年々上昇する中で、辛うじて実施できている。 なんとか協議会で事業を維持している間に、市が事業主体として予算化し、地域の団体あるいはタクシー会社に事業委託する形態の事業、デマンド交通、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。と言い続けてきましたが、これは、人口増加が望めない自治体の永遠の夢であり続ける現実があり、他の民間資金の活用を模索したい。 伏尾台のような坂の街、高齢化が進む町では、有償有料のオンデマンド交通が不可欠であると考えられます。 現在では、百以上の自治体で社会実装されている種々のオンデマンド交通システムの中から、伏尾台の実情に合うシステムの構築は可能であると考えます。

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	ほそごう地域花いっぱい運動支援事業
事業実施前の 状況	地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う運動を支援していた。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要があった。
事業実施後の 状況	必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もビオラ、キンセンカ、アリサムのプラグ苗を約2000株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して、府立園芸高校生の指導のもと、予定どおり育成することができた。育成した苗は、令和6年12月17日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホームなど17施設に配り、また、地域内の歩道の花壇に植えるなど、やさしい環境作りを行うことができた。
事業の効果	ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。
今後の課題等	義務教育学校のほそごう学園とともに、地域全体の活動としての意義が高まるため、今後とも継続して支援したい。

令和7年5月30日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 川野 芳紀

事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	多世代交流支援事業
事業実施前の状況	R4年度は、子ども会を中心に、幼児から高齢者までの地域住民の多世代交流の行事を行う事業提案を行ってきたが、コロナ禍と子ども会側の日程調整ができずに、計画が実施できなかった。 また、協議会側のスタッフ不足で計画立案に至らなかった。 R5年度は、人形劇鑑賞、餅つきぜんざい大会、伏尾台桜まつりを実施した。

事業実施後の状況	幼児から高齢者までの地域住民の多世代交流を行うため、「じいじばあばと一緒に体験、寺子屋」とのコンセプトで、鑑賞体験、料理体験、茶会体験を行なった。 4月6日 伏尾台桜まつり 70名 7月27日 着付け教室 4名 9月25日 詩の朗読 25名 10月19日 ふしおだいハロウィン 100名以上 11月15日 手芸教室 10名 12月7日 餅つき大会 250名以上 1月19日 料理教室 30名 2月12日 折り紙教室 10名 3月23日 伏尾台桜まつり 中央公園 100名以上 3月29日 伏尾台桜まつり 西公園 200名以上
事業の効果	地域のロケーションを利用したハロウィン、桜祭り、時節感のある餅つき体験とぜんざい試食、いずれも内容と工夫次第で、幼児から高齢者までの地域住民の多くの方の参加が得られるようになった。 寺子屋の教室には、ようやく小中学生の参加が見られるようになり、多世代交流が叶った。
今後の課題等	費用対効果が良すぎるイベントを立案し、事業費に不用金が出る傾向が続くが、やはりスタッフ不足は解消されないため、事業予算立てを見直す必要がある。 寺子屋、教室のイベントは、単にを企画立案しても、実践するスタッフに恵まれないと中途半端な内容に陥り気味となるため、参加者が自身が、参加後に次のスタッフ、講師となれるような内容構成を目指したい。